

いずみニュースレター

2020年(令和2年)5月発行 第16号

わたしにとっての『外出』

社会福祉法人いずみ評議員

ライフサポートつばさ 利用者 鎌田 広昭

「今はコロナで表に出ちゃダメと言われている。おつかいがあまりできない。お店が空いていない。」

「表に出たら今の人（最近の若者という意味）は表で何か食べる。歩いて食べられる。自分もいつもと違う食べる体験をしたい。」

「今の人（最近の若い人）はエレベーターに車いすを乗せてくれない。駅で譲ってくれない。だからカンカンに怒っている。そういう体験がある。どこでもある。車いすは邪魔だと思っているように感じる。僕達もエレベーター、同じように乗りたい。一度は降りてくれる人もいる。降りてくれない人もいる。」

「わかるけど…。難しい。何という事はできないが（外出を）やめようとは思わない。良い事もあれば悪い事もある。大事な体験。」

「ヨーカドーは車いす貸してくれる。でっかいエレベーター乗れる。向こうの人が押してくれる。ヨーカドーには三輪自転車で行く。府中街道、車も人も多いが、譲ってくれる。」

「府中競馬場、スタンドの中に車いす席がある。他にも車いすの人が来ていた。不自由さは無い。」

「一人の時、やりとりが難しい。ドキドキ。声を掛けるのが難しい。わかってくれない。僕の言葉をわかってくれない。（でも）わかるまで聞いてくれる。いろいろな気持ちを持って出かけている。」

「来年のオリンピックを（生で）見たい。実現したい。」

ライフサポートつばさ利用者代表として、社会福祉法人いずみの評議員を担って頂いている鎌田広昭さん。授産所時代からのご利用で、つばさの歴史をよくご存じです。

ご家庭では、ご自分ができることには積極的に取り組み、買い物や市役所での手続きなどご家族のお手伝いもなさっています。そんな鎌田さんが大好きな『外出』について、日頃の思いをお話しして下さいました。

鎌田さんの言葉にその場面場面が浮かんできました。どんなに素晴らしい設備が整ってきても、大切なのは接する人の気持ちですね。 (聴き手：つばさ 市川)

日本財団福祉車両お披露目式

2020年3月17日（火）に、ライフサポートつばさにて、「日本財団助成金交付事業」により購入した、福祉車両寄贈のお披露目式を行いました。

当日は、天気にも恵まれ、青空のもと、つばさ駐車場に紅白幕を広げ実施しました。

法人を代表して福岡憲二理事長よりあいさつがあり、日本財団会長からの祝電紹介、日産自動車の方より、大きな鍵を利用者代表が受け取りました。利用者代表のあいさつ時には、利用者みなさんが「ありがとう」「大切に乘ります」などの言葉や、車の絵を記入した紙を貼り合わせて作成した、「ありがとう」の文字の横断幕を広げて感謝の気持ちを伝えました。

実際に乗車された利用者さんからは、「乗りやすい」「広くていい」「音が静かでいい」との声が聞かれ、気にいっていただけたようです。

これからも、安全運転を心掛け、利用者皆さんのために、大切に使用していきたいと思えます。

（担当：ライフサポートつばさ 千葉）



LP ガス発電機システムを整備しました

2020年3月末、あゆみの家で HONDA の LP ガス発電機システムを整備しました。これまで所有していた灯油を利用した発電機システムより燃料を多く保管できるため、連続で72時間（3日間）程度稼働させることができます。これにより、緊急災害時に医療的ケア児者の吸引器や呼吸器を使用するための電力を確保することになり、利用者様の生命を守ることに繋がるので、これまで以上に利用者様、ご家族様が安心して通所できる設備を整えることができました。又、同時に地域の停電等非常時にも本システムを緊急避難時に貸し出す等、多面的な利用方法も考えられます。今後は、社会福祉法人いずみの重度障害者の支援は勿論の事、福祉避難所としての役割、地域社会での御協力、延いてはBCP（事業継続計画：Business continuity planning）の一翼を荷うべく努力していきます。

LP ガス発電機導入時には職員全員で使用訓練を行いました。今後も定期的に訓練を行い緊急災害に備えていきたいと考えています。

（担当：ひまわり 小山）



バス送迎開始について

ライフサポートつばさ(生活介護事業)

2020年4月1日より、ライフサポートつばさの送迎に、新しく購入したバスが導入されました。

利用者さんからのご意見も聞きながら、つばさカラーの空色をメインに、オレンジ、紫色を入れたものになりました。

送迎で乗車している利用者さん以外の方にも、ぜひバスに乗っていただく機会を作るため、4月前半に、希望者全員順番に、試乗の活動を行いました。

乗車した利用者さんからは、「乗りやすかった」「大きくてよかった」「景色が良く見えていい」などの声が聞かれました。

車椅子の方6名、座席が4席、10名利用者の方が乗車できるようになっております。せっかく購入したバスですので、今後送迎以外でも、活動や行事などに使用していきたいと思っております。
(担当：千葉)



佐藤乃亜さん成人のお祝い

ライフサポートつばさ(生活介護事業)

つばさに入所されてから早2年が過ぎ、ここで過ごす時間にも慣れてきた乃亜さん。

成人を祝う会の晴れ着姿の乃亜さんが凛としていて、大人の第一歩を踏み出し、自信に満ちている姿がとても印象的でした。

乃亜さんの元気な声と笑顔があると、その場がパッと明るくなって周囲も笑顔になり、温かい雰囲気になります。これからもその素敵な笑顔を大切に、輝かしい未来へ一歩ずつ歩いていって下さい。

この度は成人おめでとうございます。

(担当：塩野)



入所式

あゆみの家成人部(生活介護事業)

4月1日(水) あゆみの家で入所式をおこないました。

今年度より2名の利用者様が新しく成人部へ仲間入りをしました。都合により1名が欠席になり、入所式は1名で行いました。午前中はお楽しみ会をひらき現在の利用者様から新しい仲間へ楽しみながらたくさんの質問をしました。午後はお花のアーチをくぐっていただき1人ひとりの利用者様と顔合わせをしました。先輩・職員から歌のプレゼントで「WAになっておどろう」を歌い歓迎しました。

これから色々な経験をしながら、あゆみの家で楽しく過ごしていきましょう。
(担当：高野・水野)



卒室会

ひまわり(放課後等デイサービス事業)

桜満開の3月、ひまわり放課後等デイサービスでは2名の方が卒室されました。

卒室式当日に向け、子どもたちは部屋をお花で飾ったり、「式次第」やプレゼントの色紙を書いたり・「ありがとう」の気持ちをこめて準備をしてきました。

当日はビンゴゲームや、職員の顔をスマホで撮影し加工した写真がだれかを当てるゲーム、歌やスライドショーなど、笑いっぱい楽しい時間になりました。最後に保護者の方からいただいたご挨拶からは今までのことを思い出し思わず胸が熱くなり、また卒室生の言葉からは成長した姿が感じられ、とても感動しました。

これからもみなさんが笑顔で楽しく過ごせることを職員一同心から願っています。

(担当：岡村)



卒園をお祝いする会

あゆみの家幼児部(児童発達支援事業)

3月21日(土)桜が綺麗に咲き、暖かく春らしい陽気の中、いずみホールで「卒園をお祝いする会」を行いました。

卒園児は卒園証書を受け取ると、自分の写真に見入った後、大事そうに抱えていました。保護者の方からは、お子様の成長を振り返りながら思い思いのご挨拶を頂き、感動に包まれました。

あゆみでの思い出スライドショー上映もありました。入園直後からだんだん成長していく姿の写真を見て、「小さかったんだね」と声が上がったり「かわいいねー」と指差ししたりしながら、皆楽しそうに見ていました。

今回のお祝いの会は、アットホームな雰囲気で行われ、3名の卒園をお祝いしました。それぞれの新たな道で大きく羽ばたいていけるよう、これからも応援しています。

(担当：小野)



卒園生を送る会

ひまわり(児童発達支援事業)

ひまわり 2019年度卒園式は「卒園生を送る会」として縮小した会を行いました。

卒園証書授与、思い出を振り返るスライド、卒園児母からのひと言、記念写真撮影等、とても和やかに会は進み、笑顔、時に涙ありの暖かな時間になりました。当日は在園児一名が在園児代表として一緒に卒園児を見送りました。

令和元年度のひまわり卒園生は三名で、四月から小平特別支援学校の一年生です。ひまわりは寂しくなりますが学校、地域での活躍を見守っています。卒園児の皆さん、ひまわりに成長した姿を見せに来て下さいね。

(担当：西島)



助成金を頂きました

- 東京善意銀行 様
加湿空気清浄機・電子ピアノ（つばさ）



加湿空気清浄機



電子ピアノ

- 赤い羽根共同募金B分配 様
フロアマット・褥瘡予防用マット（ひまわり）
人形劇(大きなカブ)の誘致（幼児部）



フロアマット



褥瘡予防用マット

- 公益信託 東京障害児童福祉助成基金 様
アップシー・キッドウォーク（ひまわり）



アップシー



キッドウォーク

- 真如苑 多摩地域活動公募助成 様
バイブレーションクッション（ひまわり）



バイブレーション
ビーンズクッション

音楽に合わせて
振動するクッション

大人と子どもが一緒
に歩ける歩行補助具

歩行の重心移動に合わせて
座面が動くウォーカー

人形劇を楽しんだり、新しく購入した備品を使って充実した活動ができています。
ありがとうございました。

ご寄付を頂きました

- メリーチョコレート 様より
クリスマス用チョコレート（幼児部、ひまわり）
子ども達が大喜びでした。ありがとうございました。

- ご利用者 様より
マスク（ひだまり）、アルコール（つばさ、成人部）
コロナウィルス等の感染予防に役立てています。ありがとうございました。

布マスクを作って頂きました（有料）

- シルバー人材センター 様より
布マスク 200枚（全事業所）

職員が使用させて頂いています。コロナウィルスの影響によりマスク不足になっている中、布マスクを作って頂きありがとうございました。

硝子戸の向こう

連載企画 第16回
理事長 福岡憲二

新型コロナウイルス感染症の大流行に寄せて

触れなくなかったのですが、やはりコロナウイルスについて、最近見聞きすることです。大澤真幸氏（社会学者）は「ウイルス自体は文明の外からやってきた脅威ですが、それがここまで広がったのは“グローバル資本主義”という社会システムの負の側面、リスクが顕在化したからだと思います。未知の感染症は野生動物が主な宿主です。世界中の原生林が伐採され、都市化された結果、野生動物との接触機会が増えて、病原体をうつされるリスクも高まった。英国の環境学者のケイト・ジョーンズは”野生動物から人間への病気の感染は、人類の隠れたコストだ、と指摘している」と。（朝日新聞 4.8 朝 11 面）「今回のパンデミックも私たちが自然の隅々まで開発の手を広げたことで、未知の病原という“自然”から手ひどい逆襲を受けているのです。（同上）

一方で、桜井よしこ氏は文藝春秋 4 月号で「武漢ウイルスの発生源は、華南海鮮市場ではない。そこからわずか 280 メートルの近距離にある武漢疾病予防コントロールセンターから流出した可能性がある」と、華南理工大学教授の情報を披露しています。ひょっとして、空想科学小説や映画に出てくる生物・細菌兵器かと、考えたくもないおぞましい話です。いずれにしろインヴィジブル（invisible；不可視）な、単細胞のたんぱく質の生き物で、まるで遠い宇宙から地球に突然襲来し、見たこともない兵器で人類をせん滅しようとするインベイダー（invader；侵入者）を連想させます。

いわば人為を超えた予測困難で、制御不可能な様々な外的要因、例えば天災地変、外敵、戦争、地震、火事、落雷、津波、嵐や大疫病の流行、暴動、ストライキなどを指すフォース・マジュール（Force Majeure；不可抗力）の事態の一つと考えられます。

「感染症との闘いには、国家としての対応と、個人としてのふるまいの二つの側面がある。人類はその両方でウイルスに負けている印象だ。国家としての負けは責任を個人に転嫁してきたこと。自粛要請で政治責任やコスト負担を避けている様子がそれです。一方で個人の側の負けは、怒りや疑心暗鬼の矛先を互いに向けあい、総動員体制に無意識のうちに加担することだ」と國分高史 朝日新聞編集委員は同紙 4 月 8 日朝刊「多事奏論」で喝破しています。「感染拡大を防ぐために、個人として出来ることをするのは当然だ。だがその鬱憤をほかの人に向けてはウイルスの思うつぼだ」と。（同上）

大澤氏も 3 つの崩壊が恐ろしいと。一つは医療システムの崩壊。二つは経済システムの崩壊。それと人々のメンタル面の崩壊であると。

社会的弱者をコロナのキャリアーかと疑ったり、一般的トリアージに従って、救済順番を遅らせたりするなど起きてはいないか。この時だからこそ「最も弱い立場にある人こそ最優先で救済する」ことが人間倫理の根幹であることを思い出したい。



－ 放課後等デイサービスで入浴サービスを開始します －

あゆみの家には2台の機械浴槽があります。

これまであゆみの家成人部（重症心身障害者を対象とする生活介護事業）が使用してきましたが、今年度から、ひまわり（放課後等デイサービス事業）でも入浴サービスを開始するべく準備を始めています。

ご興味のある方、ご連絡お気軽にご連絡ください。
お待ちしております。



○放課後等デイサービス：ひまわり

Tel 042-394-7231 担当：梶沼

- 編集後記 -

本誌を手にとって下さった皆様、そして発行までにご協力いただいた多くの皆様に、心から感謝申し上げます。

日々変わりゆく状況の中、一步ずつ進み、小さな出来事も大切に感謝の気持ちを常に持ち続けたいと思います。

新緑のまぶしい季節です。到来する夏の暑さに負けない様に今から体調管理には十分気を付けていきましょう。

(ひまわり 西島)

発行元：社会福祉法人いずみ
東村山市富士見町 3-3-4
Tel 042-394-1868

※記事内の写真についてはご本人、ご家族の了承を頂いております。